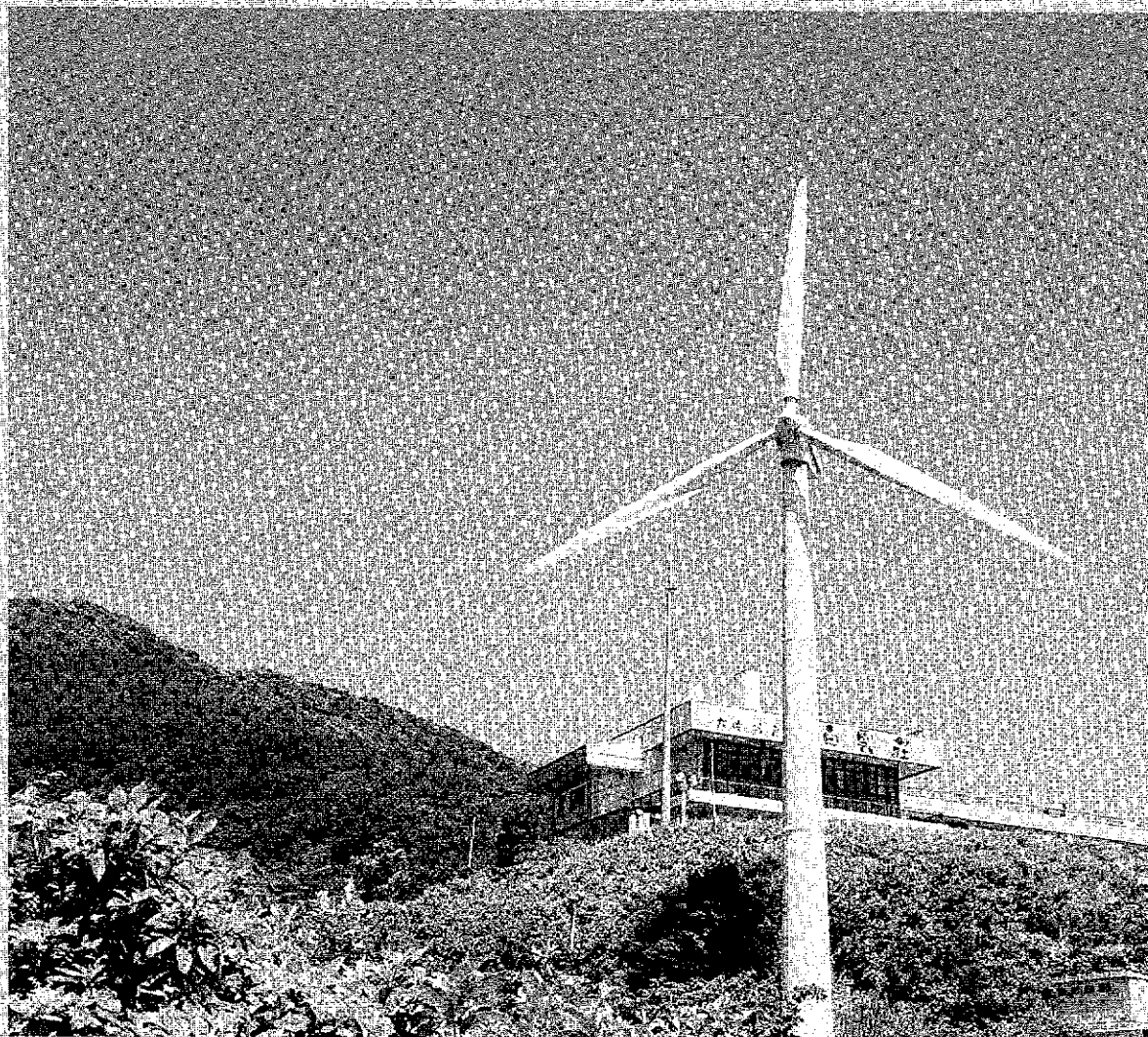


新潟県

公民館月報 10

平成11年10月号 通巻第560号



表紙 初秋の風を受けて回る 県内最初の風力発電
(金井町公民館)

資料提供 家庭教育の充実方策について

視 点 子供たちのセカンドサークル＝公民館

ひろば 高齢者学習に思いを寄せて

サークル交流 スペイン語会話 (長岡市中央公民館)

実用習字教室 (柿崎町中央公民館)

素顔拝見 板垣藤生さん (村上市)

佐藤充さん (湯之谷村)

下越地区公民館関係役員研修会開催

◇研修テーマ

『生涯学習に果たす公民館の役割』

二百五十余名の参加を得て

標記研修会は、二市北蒲原郡公民館連合会の主管の下、9月30日(休)10月1日(休)の二日間にあつて北蒲原郡豊浦町公民館に約二百五十余名の参加を得て盛会裏に終了した。

初日は分科会で、参加者は五つの分科会に別れて、夕刻まで熱心な討議が展開された。第一分科会は「青少年事業と公民館」をテーマに、地域の特色を生かした青少年事業の取組みの実践例が、新潟市首野木地区公民館から提起され、第二分科会では「学社融合と公民館」を採り上げ、小学校と地域の連携事業について白根市中央公民館から紹介され、また第三分科会では「地域活動と公民館」の問題が羽茂町公民館から提起された。第四分科会は「公民館運営審議会委員の役割」について、納涼まつりの取り組み実践例をおして味方村公民館から紹介された。そして、第五分科会では、新任職員を対象に「初任者等研修」が、当公

民館連合会顧問上村捨二郎先生を講師に、公民館職員の資質向上のための具体的な方策について、演習を交えて展開された。第二日は、それぞれの分科会の報告がなされた後、下越教育事務所社会教育課長小林剛先生より、研修の総括と今後の方向づけについて、適切な指導をいただいた。

最後は記念講話で、「情報は人にあり」大切なヒューマンネットワークと題して、岩船郡関川村収入役佐藤忠良様より、現代的な課題である情報と人間との関係について、せきかわふるさと塾と大したもん蛇まつり、その他の地域振興で得た人脈等の、豊富でしかも具体的な実践事例をおして

お話いただいた。

こうして、充実した二日間の研修が無事終了した。



中越地区公民館職員研修会開催

◇研修テーマ

「公民館事業における

受益者負担の方向について」

地方分権が進む中、現下の急務の課題である「公民館事業における受益者負担の方向について」を正対して採り上げ、去る9月30日(休)、中越地区公民館連絡協議会主事部会の主管の下、八十五名の参加を得て加茂市公民館で開催された。

研修会の冒頭「公民館事業の受益者負担の現状と今後の動向について」寺中構想から、10・9・17生涯学習審議会答申、10・3・26教育行政機関と民間教育事業者との連携の促進についての報告等を踏まえて、当連合会鈴木友夫事務局長より具体的な基調提案がなされた。

「加茂市における公民館事業の受益者負担について」加茂市公民館次長水信清吾様より実践発表がなされた。午後後の部会は「公民館事業における受益者負担の実態と今後の在り方について」ワークショップ方式で情報交換と意見交換がなされた。

最後に、各部会報告がなされた後、まとめと総括として今後の在り方について、当会鈴木事務局長より提言がなされた。今回の研修は、館長・公選審委員の研修から分離独立させた正に実務者主体の研修で、大変充実した内容となっている。研修と実践を大前提とする中公連主事部会の意向が感じられた一日であった。



見附市公民館設置50周年記念 公民館大会、盛会裏に終了



地球規模を考え、地域社会で考えようをテーマに、見附市公民館設置50周年記念大会は、9月17日(金)見附市中央公民館で多数の関係者の参席の下開催された。

開会に先立ち、エキジビション、見附市中央公民館と亀田町公民館を電話回線で結び、それぞれの会場にいるコーラスサークル同士が、ビデオカメラで撮影されたお互いの画像を大型スクリーンに映し出している合流で幕開けした。

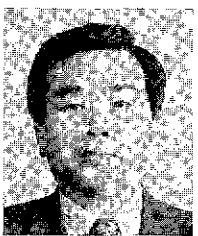
第一部は「学習ボランティア要請講座の実践報告と子育て劇」の上演発表がなされた。

第二部はパネルディスカッションで「市民の新たな学習創造にかかわる公民館の役割と可能性」について、これまでの歴史の経緯、現状、今後の方向等、公民館活動に深くかかわって来られたメンバーから具体的な提言がなされた。

歴史と伝統を誇る見附市の公民館、手づくりの50周年記念大会は、素朴で好感のもてる催しであった。

視点

最近、公民館の元気のよさが日立つ。地域の人々の生涯学習の拠点になってきている公民館も増えてきている。ボランティア活動の中心所もある。しかし、子供たちの公民館利用を



活動を体験させたり、異年齢集団による遊びを奨励するなど、地域を基盤に子供同士の心のふれ合い場と機会を設定することである。この役割をより積極的

全国的に見ると微々たるものである。今、子供を取り巻く状況は、いじめや不登校など様々の問題を抱えている。その解決の一つに、子供同士が寝食を共にし汗する体験

「子供たちのセカンドスクール」Ⅱ公民館

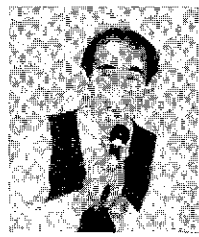
小林 剛

地方分権推進計画が進む中で、学校教育も社会教育も大きく変わるうとしている。これまでの教育は学校中心であったが、これからは公民館から子供たち

にどんなアプローチをしてもらいたい。そして、公民館からは、つねに子供たちの歓声と談笑があり開かれた公民館であり、子供たちの「セカンドスクール」であってほしい。

県教育庁下越教育事務所
社会教育課長

高齢者学習に思いを寄せて 栃尾市公民館運営審議会副委員長 平澤 博



日本人の平均寿命はこの四十一年間で、男13・9歳、女16・2歳伸び、更に今後十年間の人口動態は、15歳から24歳までの人口は六百万人減り、逆に65歳以上はこれと同数の六百万人が増加する、と云う予測が報じられています。

一方平均寿命も女84歳男77歳と年々伸び「長寿国の座ゆるがず」の報道も耳にするとき、喜びと不安が混在するような気にもされます。では、その時どうなるかなどは、私には計り知れぬものがありますが、極く身近な我が町内の一例を取り上げてみますと、今話題になっているのが十年後、自力で屋根雪処理(雪堀り)が出来るのは10%が限度でないか、と活動力の低下が懸念されている処であります。さてそこで、高齢者対策面では制度的にも或いは事業面でもいろいろあります。特に明年度から発足する「介護保険制

ひろば

「度」一体だけの受益、或いは負担があるのか未だ良く分かりませんが、効率的運営のなされることを望んでいます。他方一般高齢者に対する必要な施策もこれまた選択に迷う程であります。学習活動面では、携を見逃してはいけません。更なる親密の度が求められている気が致します。私も町内のクラブ員であります。また他の会にも接する機会がありますが、そこで感ずることは「生きがい」と云うことであります。これを端的に表現すれば、いろいろな事業に参加したとしても、そこに高齢者自身から「良かった」「為になった、またの楽しみだ」と云う生の声があきこえる事業、いわゆる持ち方にあると思えます。いわば高齢者の興味性、次に事業の速効性、更には俺れにも出来るかやってみよう、と云う競争性、などの要因をとり入れた事業の展開こそ高齢者の生きがいを助ける学習ではないか。こんな思いを寄せている者であります。

◇はじめに

子どもの教育や人格形成に対して、最終的に責任を負うのは家庭である。家庭教育は、家族との触れ合いを通して生きる力の基本的な資質や能力を育成するすべての教育の出発点である。

家庭教育の重要性を否定する者はいない。しかしながら、少子化、共働き、情報化、都市化などの社会構造の変動に伴い、家庭教育の機能が十分に発揮されにくくなってきている。

そこで、第22期社会教育委員会では、家庭教育の充実方策について、家庭教育に関する学

平成10年3月

実方策について

会教育委員会議建議

習機会の充実、生活圏での子育て支援ネットワークづくりの推進、親子の共同体験の機会の充実、父親の家庭教育参加の支援促進などの観点から審議を積み重ねてきた。

審議の結果、当会議は、新潟市の家庭教育に関する行政施策がおおむね評価できるものであることを承認した上で、今後一層努力すべき4項目について建議する。

- 1 生活圏での子育て交流・体験広場を常設する。
- 2 家庭教育に関する学習機会を充実する。
- 3 父親の家庭教育への参加を支援し、促進する。
- 4 家庭教育への支援と情報提供を一体化する。

一、生活圏での子育て交流・体験広場を常設する。

都市化や核家族化の進む今、家族は多様化し、社会の中で孤立して家庭の中に閉じこもりがちになっている。また、家族内でも、夫婦間、親子間でのコミュニケーションが不足している。

また、子育てが母親ひとりにゆだねられていることが多く、世代間の交流も希薄になっている。つまり、家族の独立化が進み、子育てをめぐる様々な問題が生じた時に家庭の中だけで解決す

ることが困難になってきている。このような状況の中での子育てを支援するために行政ができることは、家庭と社会との橋渡しである。家族が社会と混じり合い、様々な交流や体験をすることを通して、成長していくことを支援する必要がある。そのため、子育て交流・体験広場を身近な生活圏に常設することを提案する。

(1)子育て交流・体験広場で行われること

- ①独立する家族どうしが混じり合う場と機会の提供
共通の興味関心をもつ家族や同じ問題を抱える家族どうしの出会いの場となり、社会や自然などいろいろな関わりの中に飛び出して行くきっかけをつくる。また、そのような関わりを保っていくための場を保证する。
- ②子育ての当事者である親どうしが話し合い、情報交換や学習・相談をする場と機会の提供
親自身が自ら考え、学習し、意識改革を行うための支援をする。講演を聴くだけでなく、共通の問題意識をもつ人たちが集まって、自分たちでどうするかということを語り合うことができるようにする。

母親は子育てを全面的にゆだねられることが多く、しばしば孤独感や閉塞感をもつ。同じ悩みをもつ親や子育ての先輩とネットワークを作り、気軽に相談したりアドバイスが受けられるような機会を設ける。また、職場以外の人間関係をもたないことが多い父親も、職場を離れたネットワークを必要としている。

(2)子育て交流・体験広場のあり方

- ③親と子が共同体験や対話をする場と機会の提供
親子で日頃できない体験(自然体験・ボランティア体験を含む)を一緒にすることで、対話が生まれることがある。また、親子どうしの討論の場をつくるなど、体験的な学習の場をセッとすることも必要である。
- ④子どもたちどうしで触れ合い成長していく場と機会の提供
子どもの社会性の発達を促すために、子どもどうしで遊べるように支援していく。親が学習している時の保育室の設置や、子どもが自ら来て遊べるたまり場の設置などが必要である。乳幼児、小中学生、高校生、青年と発達段階に応じた対応と、年長者のリーダーと

しての活用なども留意する必要がある。

⑤異なる世代間の触れ合いの場と機会の提供
幼児から高齢者まで様々な世代が参加して、触れ合い学び合うことのできるような行事や場を準備する。高齢者の知恵を学ぶなど、幅広く地域の人材を活用する必要がある。

- ①身近な生活圏への設置
家族が気軽にに行ける身近な生活圏で、交流や体験ができることが重要である。できれば、小学校の学区単位でのネットワークづくりができるようにすることが大切である。
- ②活動の企画と参加
行政だけでなく、地域の自治会や学校のPTAなど様々な団体により、子育て支援を目的とした様々な交流・体験活動が企画される。一方、この広場に集まった家族の自主活動として企画されることもある。これらの活動への個々の家族や個人の利用・参加が容易に行われるよう留意する必要がある。

③広場の常設

資料提供

家庭教育の充 第22期 新潟市社

単発的にイベントを行うのではなく、交流・体験広場として常設することにより様々な生活スタイルをもった家族のニーズに応えることができる。専業主婦、働く親、児童、生徒、学生、勤労青少年、高齢者など、集まりやすい時間帯やニーズはそれぞれ異なるのである。

④自主活動の育成・支援
広場に集まった家族は、ここを足場に様々な学習や交流、ボランティアなどに広がっていくだろう。行政主導のイベントへの参加を

求めるだけでなく、自主活動への発展を促し、支援すべきである。

(3)子育て交流・体験広場の計画的整備
このような場と機会の提供をするために、施設設備を計画的に整えていくことが必要である。

- ①プレイルーム、屋外の遊び場、砂場、研修室、作業室などの専用の施設の設置
- ②ボランティアスタッフなどの人の配置
- ③子育て情報掲示板などの設置
- ④他県の実施例などの調査研究

二、家庭教育に関する学習機会を充実する。

(1)学習の機会提供

①家庭教育学級等の充実
新潟市における家庭教育の学習は、各公民館を中心にながら充実している。しかしながら、なお一層の充実を図る必要がある。

ア 学習対象者

乳児期・幼児期・学童期・思春期については、子どもの発達段階に合わせた親の関わり方、いわゆる親への教育が主たる学習であり、それぞれかなりきめ細かに

実施されている。これからは、従来のものに加え各年齢のライフステージに対応した学習が必要である。

- (a)高校生及び専門学校生などの青年期についての学習機会を提供する必要がある。恋愛・結婚・妊娠・出産などの言わば家庭形成の基礎づくりとでもいえるこの時期においては、社会的責任、人間形成の視点から積極的に学習機会を提供していく必要がある。

(b)成熟期・老年期も家族の構成員として、社会の変化に対応し、また、これまで培った体験や知恵を後世に伝えていくことが必要である。

イ 学習内容・学習方法の改善

これまでの家庭教育事業では主に、「家族とは」「親になることとは」「男女の役割分業とは」「基本的生活習慣(しつけ)とは」「自由と放任の違いとは」「自主性と個性を大事にとは」という基本的な内容を提供してきた。今後はこれらの他に「労働・福祉・環境・政治・経済」などにも焦点をあて、それ

らの全てにジェンダーの視点と人権尊重・じゅん守(含む児童の権利に関する条約)の視点を入れた学習内容にする必要がある。

- (a)高校生、専門学校生・その他若者対象のプログラム立案及び実施。
- (b)「思春期の子を持つ親」対象の性教育も大切であるが、子どもたち自身の性教育が必要である。学校の授業では、少人数の児童・生徒を対象にする。その際、学校の教員と連携して、専門的な知識と情報をもつ保健婦など地域の人材を活用していくことが必要である。

(c)特に成長期の心理(思春期の対応)を良く知るために、問題点等に関するQ&Aのような冊子を作成して、PTAの家庭教育学級に活用する。

(d)ボランティア活動及び体験活動を学習方法として活用する。

今までの学習はどちらかといえば講座中心であった。これからは頭で理解する学習だけでなく、互いに話し合ったり、直接触れ合える体験的な学習を取り入れるなどして、

参加者が主役になるような方法を考える。

- (e)コミュニティセンターや自治会・職場など身近なところで学習できる出前講座を組む。
- (f)メディアによる情報提供や資料の提供等の工夫・配慮が、学習したくても情報を手に入れることができない人や、出かけて行くことができない人に対して、今後重要な課題になる。

ウ 実施時間の工夫

(a)乳児・幼児・学童など現在行われている家庭教育学級の多くが平日の午前中であるので、時間にゆとりのある母親が学習機会として多く利用している。父母共に働くことが多くなった現在、平日に学習できない親たちのために、土曜日の午後とか夜間、時として日曜日などに実施することで、夫婦で参加したり、特に父親が参加しやすい機会を増やすことが必要である。

(b)働く場で学習できる機会を職場と連携して作る。

(c)メディアを利用し、情報の収集や学びがいつで

もできるようにシステムを整え提供する。

(d)「性について」「ボランティア」「体験学習」「男女共同参画」などの学習機会を上・日に提供する。

②その他の学習機会の充実
ア 諸機関との連携・保健所・福祉関係施設・保育所・児童館・青年の家・少年の森・子ども創作活動館・コミュニティセンター等。

イ 民間団体等との連携
— PTA・自治会・職場等

(2)条件整備
学習機会のより一層の充実のための条件整備を考慮されたい。

①指導者の育成と人材発掘及びその活用。
ア 家庭教育指導者及び支援者育成講座の継続発展。

イ 目的別の社会教育諸団体・グループの育成や活動をはかる。ボランティア・体験学習等のリーダーとして活用する。

ウ 小学校の学区単位で子育てについて、「相談にのれる人」「相談できる人」を育成し、支援する。

エ PTAや自治会を子ども健全育成の観点から見直し・活用する。

②場の提供
ア 学校開放を積極的にす

ずめる。

イ 子どもひとり当たりの教育学的・心理学的・生理学的観点から保育室の面積拡大が必要である。

③学習者のための保育室の整備と保育者の確保。

④メディアの活用及び情報提供を充実する。

三、父親の家庭教育への参加を支援し、促進する。

(1)家庭を大切にす社会づくりのための方策

親(特に父親)の会社や仕事中心のライフスタイルから、家庭や子育てを大切にする生活への意識の転換が必要である。そのためには、家族がそろって一緒に過ごす時間を多くもち、一緒に生活や活動をすることができるよう環境を整えることが大切である。

①意識転換のための啓発活動
父親・母親が共に協力して子育てをすることの意義・重要性などを、きめ細かく浸透させる施策を強力に推進する。

②子育てへの父親の参加のあり方について、具体的な啓発資料の作成
父親と子どもの接する時間をどう確保するか、子どもと一緒に行動する活動などについて、具体的な実践資料を作

成し、提供する。

(2)父親の家庭教育参加を支援する具体的方策及び条件整備
これまで家庭教育に関する学習会に、参加したくてもできなかった人々に対する配慮、特に共働き家庭が増加していること等をふまえ、自宅や職場等身近な場所に、居ながらにして学習できるような環境を整えることが大切である。

①父親等を対象とした家庭教育に関する学習会を、企業等の理解・協力を得て、出前講座として企業等職場に開設する。

②父親等を対象とした家庭教育に関する講座・学級等を、通常の勤務時間終了後の夜間あるいは休日に、公民館・コミュニティセンター・小学校等自宅周辺の集まりやすい場所に設定する。また、夫婦で一緒に参加し、一緒に学ぶ学習形態を工夫する

とともに、体験活動が入った学習方法を導入するなど、だれでも気軽に参加できるような弾力的運営に配慮する。

③テレビ・ビデオ・パソコン通信・インターネット等のマスメディアを活用して、自宅においても気軽に学習できる機会を提供する。

④家庭教育に関する学習情報の提供や子どもの教育問題について、身近に利用できる相談体制を整備する。

(3)地域社会や学校等が行う活動に対する支援
「地域の子どもは、地域が育てる」ため、各自治会等をベースに、老人クラブや自治会役員等を中心に、各家庭及び父親に呼びかけ、地域の伝承文化の継承や各種地域行事の振興、社会奉仕、スポーツ、文化等の各種団体活動の助長のための施策を進める。また、各小学校区ごとのPTAを中心とした子育て支援のための自主的活動を助長し、支援する。

①各小学校区単位の「地域スポーツ振興会」は比較的父親等の参加が見込まれることから、スポーツを通して気軽に集う「父親学級」的事業を拡充する。

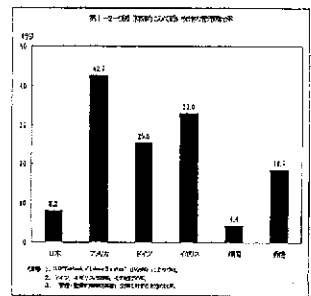
②各小学校における「PTA家庭教育学級」事業を段階的に拡充し、「地域子育て支援ネットワーク」の開設及び活動を支援する。

四、家庭教育への支援と情報提供を一体化する。
教育関係機関は、非常に広範な教育情報を収集し、保有して

いる。この情報は、市民の学習権の保障を行う上で大切なものである。親にとっては、この情報を知ることによって学習要求や課題にあった家庭教育の改善を行うことができるものである。

しかしながら、現在、家庭教育に関する情報、サービス、サポートなどがばらばらに市民に提供されているだけである。そこで、情報、サービス、サポートを一体化した形で市民に提供する工夫が必要になっている。例えば、家庭におけるコンピュータの普及が著しいことをふまえ、パソコン通信やインターネット等の新しいメディアを通じて、家庭教育に関する情報を豊かに提供していくことである。

○お詫び
前月号特集「男女共同参画社会を迎えて」第5面第1〜3頁4図にダブリがありました。左図、1〜2・9の図が抜け落ちておりました。



サークル交流

ジバ (Viva!) わたし達!!

(私達バンザイ)
スペイン語会話

Holaやあ。¡Como está!元気で
すか。

教室の戸を開けたとたん、こ
んな挨拶がポンポンとび出しま
す。始めて3回目でも同様。
私達はスペイン語を身で覚え
ようというサークルです。ほと
んどの方がスペイン語初挑戦。
会話教室ではありません。だか
らお勉強が目的ではありません。
私達の仲間のある男性が先日



10日間スペイン旅行へ行かれま
した。「スペインでジャンケンポ
ンはどうやるのか」これが彼に課
せられた私達からの宿題。帰国後
の集いがどんなに盛り上がった
か!!彼の成績は120点でした。
でも私達はただおしゃべりを
するために集まっている訳では
ありません。皆、毎回目的を持っ
て来て頂いています。目的は各
人違います。工夫を凝らした手
作りテキストを用意します。こ
れらの条件の中で、各々が自分
の目的をクリアして行って下さ
れば素晴らしいことじゃないで
すか!?

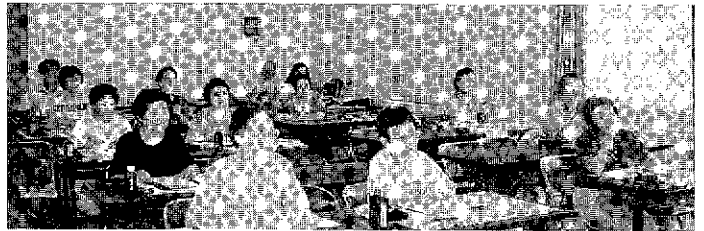
(長岡市・スペイン語会話
寺井 敦子 記)

継続は力なり、
気ままに我が道をいく

実用習字教室

出だしは、日常的に必要な祝
儀や香典袋の書き方を人に頼ら
ず自分で書けるようにと始めた
教室であったが、年毎に欲も出
て近頃は色紙や般若心経まで書
き出す人も出て来た。

講師には地域内の小林肇(下
黒川公民館長・元小学校教員)
さんをお願いしている。



参加者
は現在24
名、平均
年齢63歳
の男女で、
中には小
学校卒業
後初めて
筆を持つ
て見たと
いう人も
いれば、
町内の他
の先生や
書道の会
に所属し
ていた人
と様々で
ある。

従って
学習する

内容は全く個人の能力次第で、
極めて気ままに取り組んでいる。
有り難いことに、講師は程度
や流派には一切頓着なく指導し
て頂けるので幸いである。

参加者の口から、一日に一度
は筆を持たないと落ち着かないと
か何よりも痴呆防止につながっ
ているようだと言われている。
作品は年一度の文化祭に展示
して、互いの成果を確認し合い
精進にも役立っている。

(柿崎町中央公民館
桑原 潮 記)

村上市教育委員会

社会教育指導員

板垣藤生 さん

「半年過ぎたら楽しくなった」
この仕事に就いた二年前をこ
う振り返る板垣指導員。事務手
続き、組織機構、予算のこと...
わからないことだらけの半年を
どうにか過ごしたとき、仕事が
楽しくなったというのだ。



「いろいろな人たちとの交流
が広がり、
年若い人た
ちとの会話
で刺激を受
ける」楽し

湯之谷村教育委員会

主事 佐藤 充 さん

長いこと福祉の職に就いて
いた彼が、今年から教育委員会に
配属された。

中学生の頃、応援団長をやっ
ていた姿を覚えていたが、今は
大声を出すこともなく、控え目
な程に黙々と仕事をこなしてい
る。

主に「社会教育」、「生涯学習」、
「公民館」の業務を行っている
が、平成9年より行っている青
梅市の明星大学との陶芸を通じ
た交流事業においては、叱咤激

素顔 拝見



励を受けな
がら、初め
て芸術的な
ものに触れ
る子供のよ
うに、楽しそうに目を輝かせな
がら仕事を進めて行く姿は微笑
ましい程である。

休日には二人の子供を愛車のイ
プサムに乗せ、県内のイベント
巡りをしているとのこと。皆さ
んの街に出没したら声を掛けて
やってください。

(湯之谷村教育委員会
榎本 正樹 記)

さを見出し出した。長寿大学と文
芸関係を担当しているからとい
うのではなく、その人柄が交流
の広がる大きな要因になってい
ることは間違いない。

町行けば人が「いたがきさあ
〜ん」と気軽に声をかける。公
民館では「これ書いていただけ
ませんか」と賞状用紙や看板を
持つてくる人があり、筆を持た
されることも多いという具合。
休日の釣りや野菜づくりを楽
しみに、ライフワークというべ
き「高齢者学習の機会拡大」に
今日も意欲を燃やしている。
(社会教育係 田邊 覚 記)

上越公運審・職員合同研修会案内

平成11年度 公民館運営審議会委員・公民館職員合同研修会開催要項
 趣 旨 生涯学習推進の中核的な役割を担う公民館の運営のあり方について研修を深め、市町村における生涯学習推進及び社会教育の一層の振興充実を図るとともに、公民館運営審議会委員及び公民館職員の資質向上を図る。

主 催 上越公民館連絡協議会
 共 催 新潟県公民館連合会
 日 時 平成11年10月19日(木) 午前10時～午後3時45分
 会 場 新井市ふれあい会館
 (新井市上町9-1 ☎0255-72-9413)

参加者 上越地域市町村公民館
 運営審議会委員・公民館長等管理者・中堅職員・初任者

日 程
 10:00 10:30 10:45 11:45 12:40 13:40 13:50 14:00 15:30 15:45

受付	開会式	事例発表	質疑	昼食	アトラクション	休憩	記念講演	閉会式	解散
----	-----	------	----	----	---------	----	------	-----	----

1. 開会行事
2. 事例発表

テーマ 「公民館活動と活力ある地域づくり」

東頸城代表 牧村生涯学習係長 金井美孝

中頸城代表 柿崎町自主グループ 薄波清美

糸西頸城代表 名立町不動地区館長 久保基光夫

3. アトラクション

新井市公民館 自主グループ

4. 記念講演

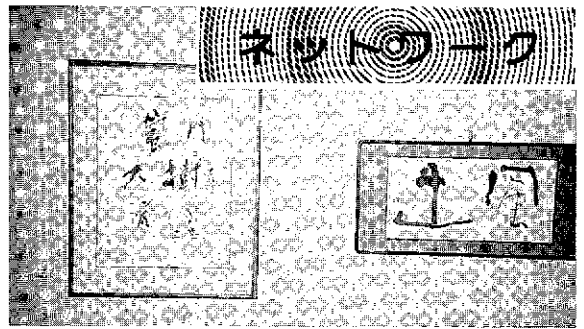
1) 講師紹介 上公連副会長 北村秀成

講師 上越教育大学教授 前山 幹生先生

演題 「今、求められている生き方」

5. 閉会

※取材を兼ねて県公連事務局からも参加予定



「文化村さかいわ」美術展開催

地域の文化振興活動をめざす、地元在住の美術家が結集して展覧会を開催し、優れた美術作品をおおして地域住民の連帯を心豊かなコミュニティづくりを行うことをモットーにして、今年度後期展が9月16日(木)26日(日)まで、西新潟市民会館ギャラリーで開催された。

後期展の特色は、テーマ制作で「風」を採り上げ、会期中は、作家と語る会、トークショー等、多彩なイベントが企画、実施され、好評であった。

平成11年度全日本ユースラリー新潟大会

成功裏に無事終了



うるおいたいがたユースフェスタと称して標記ラリーは9月11日(土)～13日(月)まで、新潟市周辺並びに佐渡島内で約四百有余の参加を得て、盛會裏に終了した。

当会からは、11日夕の交歓レセプションに今井会長が参席され、新潟市教育長代理も兼ねて歓迎のことばを述べられたが、新潟市のスポーツ活動の躍進ぶりに的を絞って話され、大変好評であった。なお、西新潟市民会館吉田館長、栄町岩崎館長、新潟・北地区館池田主任が役員として参加した。

あとがき

◇9・10月は研修のシーズンです。中・下越公連研修会に取材を兼ねて参加させていただきました。それぞれ地区の特色を生

表紙解説

初秋の風を受けて回る 県内最初の風力発電

風力発電を通じて、グリーンエネルギーへの理解と普及を図るため、設けられた。

(金井町公民館)

新潟県生涯学習振興大会(中条会場) 第一次案内

- 期日 平成11年11月13日(土)午後1時30分から
- 会場 中条町新和町2-5 (〒959 2642) 中条町産業文化会館(電話) 0254-43-6400
- 内容 新潟の歴史から現代を、今を考える集い
 講師 郷土史家 井上 慶隆(いのうえ けいりゅう)さん
 演題 武士の時代から民衆の時代へ
 ～奥山荘の古代・中世・近世～
- 申込み・問合せ 新潟県社会教育協会

025-228-2419

発行所 新潟県公民館連合会

〒951-8053

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】

【TEL・FAX (025)224-6073】

発行人 会長 今井昭友

編集人 事務局長 鈴木友夫

【定価1部150円 年共1,800円】

かされての内容でした。
 ◇県公連創立50周年記念事業も平成12年度実施予定で、そろそろ準備に入る予定です。よろしくお願いたします。(鈴木)